

グルマーイの言葉についての瞑想

イーシャ・サーデサイ

マカラ・サン克蘭ティの精神

このサツァングから私が熟考しているもう一つのことは、インドにおけるマカラ・サン克蘭ティとこの祝祭日の精神についてグルマーイが語ったことです。グルマーイは、この日に人々がティルグド(ゴマとジャガリーで作った菓子)を食べ、たこ揚げをし、遊び、祝い、この日の縁起の良さを喜ぶのだと語りました。

私は、マカラ・サン克蘭ティについてのグルマーイの説明を聞くのが大好きでした。かすかな記憶がたちまち、私の脳裏にひらめきました。母がよく作ってくれたゴマのブリトル(訳注:ゴマを練り込んだ糖菓)が、食欲にもっと食べたいと思っても、歯にくっついてしまったこと。ムンバイの高層ビルの屋上に立つ子どもたちが、自分たちで作った大きさも形も色も驚くほどさまざまなたこを揚げながら、歓声を上げていたこと。何よりも、グルマーイの言葉は、私がマカラ・サン克蘭ティから強く連想する新しさと可能性の感覚を呼び起こしました——あの輝く光、太陽の光。金色の星々が天空に舞い上がる流れのような、あの束縛のない喜び。

マカラ・サン克蘭ティでは、この宇宙の天秤(てんびん)は、私たちがそのように促したため、善と甘美さへと傾くようです。人々は互いに愛と感謝を表します。シッダ・ヨーギたちはグルへの愛によって集まり、グルが私たちに目覚めさせた神の光に浴するのです。この日、天と地を隔てるベールはより薄く、より透明に感じられます。これらの領域間のつながりは——そもそもそれらがはっきり異なっているにしても——より流動的に感じられます。

若きクリシュナ神がギリダールとして現れた姿が目には浮かびます。クリシュナ神はインドラ神の嵐のような憤怒から村全体を守り、巨大な山を指に乗せて持ち上げ、皆がその下で神の周りに集まる中、それを支えました。私たちが皆、このように共

に集い、神とグルの保護の下に定着する時、希望は明確にあり、正義はより達成可能に感じられるのです。

シッダ・ヨーガの道において私たちが祝うそれぞれの祝祭日には、深遠で特別な意味があります。それぞれの祝祭日には、独特の感情、バーヴァ、そして一連の連想が存在します。グルマーイがマカラ・サン克蘭ティについて語った時、教えていたのはこのことだと、私は理解しました。

もっと広い意味で言えば、グルマーイの言葉から私が得た結論は、私たちは常に、自分がどこにいるのか、何をしているのか、そしてなぜそれをしているのかを意識したい、ということです。

インドの詩聖たちは、グルや選んだ神と共に過ごす一日の特別な栄光を表現するために、すべてのバジャンやアバンガを作曲しました。私にはグルマーイについてたくさんの記憶、例えばグルマーイがシャーンバヴィー・クリスチャン、ヴィジュ・クルカルニ、ラクシュミー・ウェルズといったシッダ・ヨーガの優れた音楽家たちに、ダルシャンやサツァングの最中、「アージー・ソーニヤーツァー・ディヌ」のアバンガを歌うよう要請していた記憶があります。このアバンガの中で、詩聖ニャーネーシュワル・マハーラージは、「アージー・ソーニヤーツァー・ディヌ！今日は黄金の日だ！」と言っています。

シャーンバヴィー、ヴィジュ、ラクシュミーは驚異的な技術と実績を持つ音楽家です。彼らは何十年にもわたり、サツァングやダルシャン、シッダ・ヨーガの録音で歌いながらセーヴァーをささげてきました。彼らの声は今では世界中のシッダ・ヨーギたちに親しまれ、愛されています。ですから、彼らのうちの誰かが、ソロであれ、シッダ・ヨーガのミュージックアンサンブルの他のメンバーと一緒にであれ、「アージー・ソーニヤーツァー・ディヌ」のようなアバンガを歌うのを聞くのは、崇高な楽しみなのです。彼らの歌の中に、その日の黄金の輝きを感じることができます。

私たちは「今日のエネルギーは何だろう？『今日』を黄金の日にするものは何だろう？」と自問することを習慣にするべきだと思います。私たちは常にこの知識を

身に付け、それに応じてどう話すか、どう振る舞うかに意図的であるよう努めるべきです。

あなたもそう思いませんか？ 私たちの存在は、何か特別なもの、何か意味のあるものを表しているべきだと思いませんか？ 私たちは意図的に生きるべきではないでしょうか？

